



京都府南丹市

**農業と福祉の連携を目指して農業参入！畜産・加工を一体的に取り組むことで収益を確保！**

ゆうげんがいしゃ りけいやぎのうえん  
**有限会社るり溪やぎ農園**

WEB サイト：<https://www.ruri-yagi.com/>

## 参入法人の概要

法人形態：リース法人

代表者名：代表取締役 吉田 昇子

所在地：京都府南丹市園部町大河内小田仮4番地

設立年次：2005年4月

資本金：4,690万円（設立当初1,250万円）

関連会社：株式会社アットホーム（障害福祉サービス事業など）

営農形態：土地利用型、露地栽培及び施設栽培

主要作物：米、WCS用稲、玉ねぎ、人参、キュウリ等

経営面積：420a（うち所有-a、借入420a）

主な販売先：(株)アットホーム、関西よつ葉連絡会等

売上額：2,650万円

（うち農業関係750万円、畜産関係1,900万円）

従業員：7人

## ●農業に参入した目的を教えてください

有限会社るり溪やぎ農園は、環境にやさしい循環型農業を目指し、人と自然が共生し、人と人が共に助け合って生き、交流する場として設立しました。関連会社である(株)アットホームの役員を含む3人で始めました。

当時、農業と福祉の連携という考えがあまり知られていませんでしたが、水稻や野菜の販売のほか、山羊の飼育による農福連携を目指して農業に参入しました。主力商品である山羊のミルクは牛乳と比べ脂肪球が小さく乳糖の含有量が少ないため消化吸収が良いこと、また、山羊は人に懐きやすくお年寄りや障害者も気軽に触れ合えることから山羊の飼育を始めました。

## ●当該土地及び作物を選んだ理由を教えてください

南丹市で有機農業及び野菜の集荷を行っている方から土地を紹介してもらい、農業を始めました。

また、南丹市は大阪や京都の消費地から近く、ロケーションが良かったことも決め手の一つです。

主な作物は、米（キヌヒカリ）、WCS用稲、露地栽培の玉ねぎ、人参、ハウス栽培のキュウリ等です。畜産物では、山羊の乳製品を主に販売しています。



畑（露地）での玉ねぎの栽培

## ●参入にあたって栽培技術面等の課題にどのように対応されましたか

当初は、南丹市で有機農業に取り組んでいた若手女性役員（現在は退社）が中心となり農業を始めましたが、実践経験が浅かったため、試行錯誤を繰り返しながら栽培技術を高めていきました。

当時は、農業改良普及センターなどの情報を知らず、実践的に農業を始めていたので、栽培技術に関する講義や研修に行く機会がありませんでした。

現在は、農業改良普及センターや京都府の畜産センターとの関係が構築され、いろいろな栽培技

術等に関する情報が得られるようになっていきます。

### ●生産性の向上についてどのように対応されましたか

毎年、作物毎の肥料の施肥量等のデータを取り、品質や収穫量の総括を行うことで、データが蓄積され良い物ができるようになりました。

また、水田を借りることができるようになり、徐々に経営面積を拡大していくことができました。

(有)るり溪やぎ農園では、山羊 40 頭を飼っているのですが、飼料価格の高騰に対応するため、昨年からは WCS 用稲の栽培 (50 a) に取り組んでおり、今後も WCS 用稲の栽培を拡大 (目標 150 a) していきたいと考えています。

具体的な栽培方法は、化学肥料を一切使用せず、堆肥のみで栽培しています。農薬については野菜は原則使用しませんが、使用するときは最小限使用、米は除草剤 1 回のみでの使用で対応しています。



WCS用稲の収穫



飼育している山羊

### ●販売先、販路についてはどのように確保されましたか

(株)アットホームが運営しているサービス付高齢者向け住宅やグループホームでの給食用の米や野菜の提供 (販売) を行っており、同社の事業拡大とともに販売量が増えていきました。

また、自社の役員の一人が、関西よつ葉連絡会に勤めていた関係もあって、関西よつ葉連絡会関連の集荷会社への販売を行っています。最近では、京都府内で野菜の小売業を展開している株式会社ヘルプに営業に行くなどして、新規の販路開拓を行っています。

### ●農業参入してみて気づいた (参入するまで気づかなかった) のはどのようなことですか

農産物は、野菜の価格も安く米価の値下がりや経費の上昇もあり、生産や出荷等に係る経費を差し引けば、販売だけで収益を上げるのは非常に難しい状況です。特に、中山間地域では、高齢化や担い手不足が進んでおり、このままでは日本の農業、ひいては集落そのものが崩壊する危機感をもっています。

日本と同じように山が多いスイスなどでは、国民の合意を得た上で農業への補助 (農家への直接補助的なもの) が充実していると聞いています。日本でも農業支援の在り方を根本的に考える時期が来ていると考えています。

### ●地域の方や JA との関係について気を付けていることがあれば教えてください

JA への出荷は行っていませんが、資材等は JA から調達することも多く、役員が JA の準組合員になっています。

自社が借りている水田が二つの集落にあり、ため池の管理作業等への出役など、地域の方との交流を大切にしています。それにより信頼関係ができ、今では集落内の水田を借りられるようになりました。

### ●今後の経営方針について教えてください

栽培面積等の規模の拡大は考えていませんが、畜産関係で山羊の増頭を行い、チーズ等の加工品の生産を拡大したいと考えています。

また、ロケーションが良いので山羊の観光農園など観光事業に取り組みたいと考えており、譲り受けたレストランの施設を活用した事業展開ができないか考えています。

### ●今後、農業参入しようと考えている企業へのメッセージをお願いします

自社が成功事例と言えませんが、農業関係だけで収益を上げるのは非常に厳しい状況です。自社では、農業関係と畜産関係の加工品の販売と合わせて経営を行っています。このため、企業が新たに農業に参入する場合、農業関係（1次産業）だけでなく、加工（2次産業）や販売（3次産業）を合わせた6次産業化に一体的に取り組んで参入することが必要と考えます。



中山間地域で米を栽培しているほ場